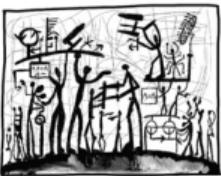


一九六〇年に入り、細長い棒状の線で表現された人物が登場。人間の行動の背景にある動機を検証する。

抽象化

『東西ドイツの分断?// 冷戦?』



『世界絵画』1961



『システム絵画』1961



詩と音楽で官僚主義的な体制を批判する「ヴァルフ・ビーラマン」と出会った詩人。



『シュタンドアルト』1968



シュタンドアルトを説明する本



『シュタンドアルト-モデル』1973



『反-ニ冷たい絵画』1961



『T.M.』1974



『シュタンドアルト』1973

抽象化と具象化に両者を組み合わせて構成される画面も。



西側の作品を準備

バゼリツを介して知り合った画商のミヒャエル・ヴェルナーは、一九六八年のケルンのハーケ画廊での個展を皮切りに、ヴァインクラーの作品を西側で積極的に紹介し始めた。



マイケル・ヴェルナー
(1958-1995)

ヴァインクラーは氷河期研究を知る地質学者アーネスト・ペインにちなんで「アーネスト・ペイン」の名前で名乗ることになった。ヴァインクラーは西側で展示された自分の作品を見ることはなかった。



『みんなで川原に描く』

「リュッケ」は、ドイツ語で「迷間、空白」を意味し、一九五五年にドレスデンで結成されたグループ「リュッケ」にちなみ付けられた。

一九六一年八月十三日、ベルリンの壁の建設が始まる。西ベルリンにバゼリツを訪ねた翌日だった。

以後、反体制的な文化活動への取り締まりが厳しくなる。

ヴァインクラーは、サイバネティクスや原始美術の影響の下、人間・幾何学的記号やシンボルの体系化を進め、一九六〇年代半ばには社会主義への建設的な希望を目的とした独自の概念「シュタンドアルト」を生み出し、絵画のみならず幅広い展開した。しかし、作品 자체は西側の抽象絵画からの影響を疑わぬ、反体制的とみなされた。

「軍旗」を意味する「シュタンドアルト」は、標準基準を意味する「シュタンドアルト」の造語である。